TOHOKU UNIVERSITY
IRIDeS
東北大学災害科学国際研究所

災害研教職員を対象とした AED 使用講習会（第 9 回）を実施しました (2026/11/16)

テーマ：質の高い胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）、119 番通報
場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）
URL：東北大学クリニカル・スキルラボ https://www.csl.med.tohoku.ac.jp/index.html
PUSH Project https://osakalifesupport.or.jp/push/

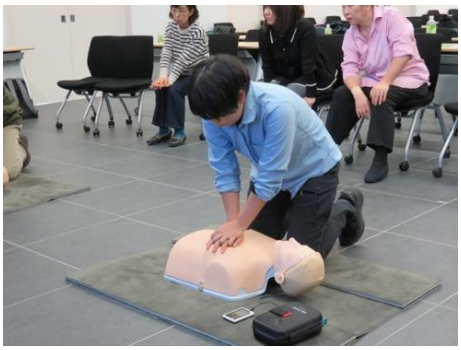
2026 年 11 月 16 日、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所において災害研 AED 使用講習会（第 9 回）を開催し、当研究所教職員 10 名が受講しました。東北大学クリニカル・スキルスラボ 須藤剛志先生（看護師）、荒田悠太郎先生（トレーニングコーディネーター）が講師を務め、当研究所の佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が講習サポートを行いました。

当講習会は大阪ライフサポート協会の PUSH Project に基づく本格的な講習会です。①質の高い胸骨圧迫、②AED 使用、③意識・呼吸確認について、それぞれ動画教材視聴後に実技講習を繰り返しました。傷病者役のシミュレーターに圧迫深度・回数の過不足を測定するモニターを設置し、受講者は質の高い胸骨圧迫を実施できているかリアルタイムで確認しながら技術を修得しました。総まとめとして④傷病者の発見から接触・意識の確認・応援要請・AED、119 番通報の依頼・呼吸確認・胸骨圧迫・AED 使用を一連で実践し、約 1.5 時間の講習を終えました。受講生は普段の生活と講習の内容を重ね合わせ、「嘔吐があった際の対応は？」「傷病者の体が濡れている場合は？」など、講師に積極的に質問しました。受講者は 1 分間の胸骨圧迫ですら息が切れるほどの労力を要すると身をもって学び、意識を失った人を助けるには迅速な対応と声をかけ合い協力することが不可欠であると実感しました。講習修了後、受講した教職員は自発的に所内の AED 設置場所を確認していました。

当研究所ではこのような実践的な教職員研修をこれからも継続していきます。



致死性不整脈について
教材を視聴する教職員



胸骨圧迫の深度・回数を測定
中。1 分間でも大変です



協力して胸骨圧迫・
AED パッド装着を行う



受講証を片手に須藤先生・
荒田先生と参加者全員で

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）、中野夏海（広報室）